

令和 5 年 8 月現在

プロジェクトの詳細

開 庁	： 令和5年8月14日
人 口	： 約85,800人
対象人員	： 約600人
延べ床面積	： 約12,990㎡
建物概要	： 鉄骨造 4階建て
委託業務	： 守山市新庁舎 『つなぐ、守の舎』オフィス 環境整備支援業務 守山市新庁舎移転支援業務



3階一般職席

高さの異なるピクテールやABWスペースを配置し、業務内容やコンディションに合わせて、主体的に働く場所を選択することが可能。



1階ロビー・窓口(建築工事) 窓口カウンターには、セグメントパネルを配置し、利用者のプライバシーに配慮することで安心して相談することができる。



2階窓口

子育て支援関連部署のカウンターラインにキッズスペースを配置。お子様を見守りながら窓口相談を受けることができる。

令和5年8月、新庁舎『つなぐ、守の舎(もりのや)』の開庁を迎えた守山市は、全国自治体において先進的な新しい働き方を採り入れた自治体として注目を集めています。

新庁舎では、課長席を含めたフリーアドレス・グループアドレスを導入し、各所にABWスペース(上下昇降テーブル・集中ブース・ファミレスブース・窓際集中スペース・立ち会議スペースなど)を構築することで、職員は業務内容やコンディションに合わせて、主体的に働く場所を選択することができます。また、庁内には無線LANを配備、職員にはノートPC・スマートフォンが支給されており、場所に捉われず庁内のどこでも執務可能な環境を整備しました。また、執務室中央部にマグネットスペースを配置し、文房具の保管や分別ボックスをフロア内で共有化することで、隣接する部門同士の交流を創出しています。さらには、庁内職員だけでなく、出先機関の職員も利用できる「共創空間」を設け、開放的でカジュアルな雰囲気を出すことで、職員が集まりやすく、部門を超えた交流と相互連携を促し、新しい価値創造や生産性の向上に繋げています。

新庁舎建設を契機とし、新しい働き方への大胆な挑戦を進めることにより、職員自身が「より良く、効率的に働く意識」を醸成し、業務の効率化を図ることで、よりよい行政サービスの提供を目指します。



オカムラHPでも
ご覧いただけます

フリーアドレス・ABWを採り入れた 場所にとらわれない新しい働き方



1・2階一般職席

課長席を含めたグループアドレス制に対応できるレイアウトを導入し、1人当たりW1200D600の机上面・背メッシュ仕様の椅子を利用。ワゴンレスの運用とし、個人物品は個別ロッカーに保管。



3階窓口

ミーティングスペースを通路側に配置することで、明るく開かれたイメージを保つつ、執務空間と通路を緩やかに区切る。



3階一般職席

課長席を含めたフリーアドレス制を導入し、1人当たりW1200D700の机上面を利用。ワゴンレスの運用とし、文具セットを机上面に配置し共有。



3階一般職席

丸型テーブルを配置し、ペアワークや打合せなどにも活用。執務椅子は役職者を含め共通仕様で統一。



4階一般職席

課長席を含めたグループアドレス制に対応できるレイアウトを導入し、1人当たりW1200D700の机上面・背メッシュ仕様の椅子を利用。ワゴンレスの運用とし、個人物品は個別ロッカーに保管。



役職席(全フロア共通仕様)

W1600D900 幕板付きテーブルを採用。広い机上面を採用することで、場所を移動することなく、打合せなども即時行うことができる。



集中スペース

職員の健康増進に配慮し、利用しやすい高さに設定することが可能な上下昇降テーブルを採用。



ファミレスブース

ソファ仕様や背面パネルを採用し、籠り感を感じながらリラックスできるスペースを構築。



集中ブース

周囲の視線や音を遮り集中作業に最適なスペース。個人の集中作業やアイデア出し、WEB会議などに活用。



マグネットスペース

執務室中央に設けており、文房具の保管や分別ボックスをフロア内で共有化することで、隣接する部門同士の交流を創出。



共創空間

庁内職員だけでなく、出先機関の職員も利用可能。開放的でカジュアルな雰囲気を演出することで、職員が集まりやすく、部門を超えた交流と生産性向上に繋げる。



共創空間

複数の職員が大型テーブルを共有利用することで声掛けを誘発し、コミュニケーションの活性化に繋げる。また、モニターの設置や、壁面がホワイトボードになっていることで、チームでの打合せにも活用できる。